

お元気ですか

三菱樹脂OB会だより第三号

高橋会長ご挨拶

明けましておめでとうござい
ます。旧年中は大変ご協力を頂き
ありがとうございました。
本年もどうぞよろしくお願
いいたします。

いよいよ二十一世紀の幕開け
の新年を迎えました。私達全員が
生まれ、育ち、力いっぱい働き生
き抜いてきた二十世紀と別れを
告げ、新しい世紀に入りました。
二十一世紀は「IT社会」進展で
幕開けするといわれていますが、
人類がいかにしてこの地球の自
然環境と調和して持続可能な発
展を遂げていくか、人類の英知が
求められる世紀でもあると思い
ます。科学と倫理の調和も大きな
課題でしょう。OB会員の大部分
の方は現役第一線をひかれてお
られますが、それぞれの立場で経
験に裏付けされた知恵を求めら
れることと思います。

その中で、OB会は親睦活動や
広報活動を通じて、会員皆さんの
心身の健康に役立ち、何時までも
若々しい気持ちを持ち続けられ
ることに役立ちできれば幸い
と念じております。

OB会も昨年十月で満十年を
迎えました。OB会の運営は、本

年、先の総会でも申し上げたよ
うに一昨年実施したアンケート
に寄せられた会員の皆さんのニ
ーズに応えるべく、次の三項目を
重点課題として取り組み、これ
を推進することといたします。
一、リクリエーション分科会活動
の充実
二、広報活動の充実
三、情報ネットワークの構築



「OB会だより」第三号をこ
にお届けしますが、今回からスタ
イルを変え少しでも読みやすい
ものにするのを心がけました。

また、「インターネットのOB
会ホームページ」に、会員の交流
の場「掲示板」を作りましたの
で活用下さい。

皆様の益々のご健康とご多幸
をお祈り申し上げます。OB
会の一層の発展のためのご協
力をお願いし、新年のご挨拶とい
たします。

OB会ホームページ

前号でもご案内しましたが、す
でにOB会のホームページが開
設されていて、会員の皆様の活躍
振りが種々掲載されています。

掲示板も用意され、ホームペ
ージをご覧になったご感想やご意
見を直接書き込むことができます
ようになっていきます。

またこれを利用して皆様の趣
味の話や同好会の活動振りをご
連絡下さい。

ホームページのアドレス
<http://www.mrc.mpi-mrc.co.jp/obkai/>

歩こう会

関東地区 第十九回歩こう
会「石垣山城趾ハイキング」
平成十二年十月十日（火）東海道
「早川駅」集合 参加者「二名」
歩こう会主催の軽度の山歩き
として、小田原市西方にある石垣
山一夜城趾へのハイキングを実
施しました。石垣山は標高約二
百五十mの小高い山で、秀吉が天
正十八年（一五九〇年）小田原城
に立てこもる北条氏を攻めた際、
一夜で作ったと見せかけた城が
あった所です。

当日は好天に恵まれ汗ばむよ
うな秋空のもと、早川駅を出発し
た二名の徒組武士は、小田原ボ
ランテニア協会の本多芳雄氏の
案内で海蔵寺、秀吉の重臣・堀秀
正（天正九年長浜城主となる）の
墓所を経て、解説に耳を傾けたり
小田原市街の遠景に目を向けた
りしながら、紅葉には少し早い山
道を登りました。



本丸跡、天守台跡、二の丸跡が
あり、城跡はかなり広く、あちら
こちらを廻って、本多氏から北条
氏との戦いにまつわる話を聞き
ました。山頂からの眺めは絶景で、
小田原城や小田原市街は無論の
こと、遠く平塚、藤沢方面など相
模湾一帯が遠望できました。
その後の度重なる大地震にも
崩れなかった築城当時の石垣（近
江から来た穴太衆 あこのうしゅ
う による野面積み）や、淀君も使
った井戸の跡（現在も水が湧いて
いる）等々を見ながらの本多氏の

話にひきこまれ、今にも秀吉や淀
君が現れるかのような想いにと
らわれました。
帰りは早川駅とは反対の北側
に降り、箱根登山鉄道入生田駅に
ほど近い太閤橋に到着。少し待っ
て迎えるバスに乗り「箱根ビール
蔵」へ、ここで地ビールを堪能し
帰りは風祭駅から小田原駅に出
て楽しい一日を無事終わりました。
（野中矩仁会員記）

関西地区 第一回歩こう会

「中山道を歩く」
平成十二年十月十七日（火）東
海道線柏原駅集合参加者十七名
関西地区の「歩こう会」を開催
記念すべき第一回は「中山道」を
歩きました。当日は絶好のウォー
キング日和でした。
参加者は、小林一好さん、青山
敏雄さん、広瀬洋造さんご夫妻な
ど十七名です。



今回は、関ヶ原の合戦から四百
年を記念してイベントが行われ

ているのにちなみ、中山道「近江柏原宿」を午前十時に出発して、「今須宿」「山中宿」を通って「美濃関ヶ原宿」までの十二キロ強・四時間半の行程です。

「柏原宿」ではご当地在住の梶道信会員からこの地の伝説に耳を傾けたり、職場で行った松茸狩りの話に興じたりしているうちに、古代三関の一つ「不破の関跡」に到着しました。

この「史跡公園」で秋の日差しを受けながら昼食をとり後半に向け出発。

常磐御前の墓、壬申の乱史跡、関ヶ原合戦史跡などを通り、最後は「関ヶ原歴史民俗資料館」でNHK大河ドラマ「葵」を思い起こしながら見学。午後三時東海道線関ヶ原駅にたどり着き、ここで解散となり、和気藹々の秋の一日を終わりました。

(古川國男会員記)

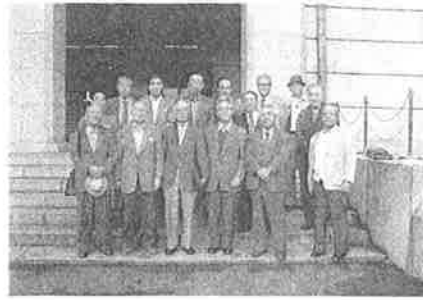
中国国宝展観賞会

平成十二年十一月七日(火)

上野駅公園口集合 参加者十八名。展示品は全て近年の発掘によるもので、出土品の中の逸品が精選され、実に質の高いものが多かった。なかでも会場の最初の部分に展示されていた青洲出土の仏像は、インド伝来の仏教彫刻が中国化し、そこでさらに洗練された、いずれもすばらしいものであった。青銅器にも数多くの逸品がみられた。また死者を埋葬する際に玉を置いた部分の内臓が腐敗しないという古代の信仰から発展

した莫大な数の玉でできた玉衣など興味のつきない展示物が多数あった。

紅葉しかけた構内の樹木が夕焼けに映えるなかで集合となった。ここで記念撮影。



このあと上野の飲み屋で懇親会となった。六千年の歴史を語るひと、遺跡の偽発掘事件、北京と台北の故宮博物院に行った話などおおいに盛り上がり、ビールに酒にワインとまさにのみ放題を楽しんだ。ご機嫌で解散。

(加藤進会員記)

ゴルフ同好会

(スコアの詳細はホームページに掲載しています)

関西地区第十五回コンペ
平成十二年十月十三日(金)、彦根カントリー倶楽部 参加者三

五名
定期コンペが八月に開催されて間がなく、参加人数が心配され

ましたが、東京の東野元貞さん、大阪の山口滋さんを含め前回の二四名を大幅に上回る盛会となりました。



小林会長の開会挨拶に引き続きアウト五組、イン四組が九時三十分同時にスタートして、自慢の腕を競いました。

プレー終了後、長浜工場の社員会館ホールで表彰式、反省会を行い、十八時三十分散会しました。入賞者は優勝 下司武夫さん、準優勝 山岡信一さん、第三位・ベストロウ賞 岩井文雄さん。

次のコンペは平成十三年五月ゴールデンウィーク明けに予定しています。(柴田弥蔵会員記)

関東地区第十四回コンペ
平成十二年十月十六日(月) 長竹

カントリークラブ 参加十六名
好天に恵まれ楽しく熱戦を展開しました。優勝 伊藤敬輔さん、準優勝 岩田幸三さん、第三位 竹本恒三郎さん、前回設定した七才以上会員で最少ネットの方

に授与される特別賞は大倉敏司さんが獲得されました。ニアピン賞は、伊藤敬輔さん、原田浩次さん、渡部一蔵さんが獲得しました。次回第十五回コンペは平成十三年四、五月頃「大厚木カントリークラブ」で開催の予定です。幹事は伊藤敬輔さんと岩田幸三さんです。(野中矩仁会員記)



旅行記

自転車で五千五百キロ走破

西沢芳朗会員は自転車伊勢、丹波など旧地名を巡る「全国伝統地名日本三十六次」を、延べ六十日間かけて完走しました

平成十一年二月六日の朝日夕刊土曜ウィークエンド経済の「定年わっはっは」の欄で西沢会員の「還暦記念し自転車で日本一周」が紹介されました。以下その記事をそのまま引用しました。

(森川栄寿会員記)

退職前にノートにいっぱい書いておいた「やりたいこと」を実行に移している。最初が一九九七年で、自転車を使った「四国八十八所巡り」である。完走に約一カ月かかったが「車道路」では味わうことの出来ない心のこもった「お接待」を四国の人からいただいた。札幌や大阪の「道路友達」もできた。



昨年は「還暦記念日本一周サイクリングひとり旅」をテーマに、日本の旧伝統地名を訪問した。「旧伝統地名」はわが町、滋賀県近江町のように旧国名を自治体名にしたところ。南は鹿児島県の薩摩町と大隅町から、北は青森県むつ市まで役場を訪ねスタンプを押してもらうラリーである。十カ国目、二十カ国目と最後の三十六カ国目を訪問すると認定証と記念品がもらえる。二十カ国目の千葉県下総町では町長さんの握手を受け、三十カ国目愛媛県伊予市では認定証はでないが市長さんから激励された。北海道まで足を伸ばし、札幌の七十四歳になる道路友達に「こちそうになった。体験記を新聞やラジオで紹介してもらい、自分の息子から「元走表

彰状」を受けとると、二カ月・五千五百キロの苦勞も吹っ飛んだ。この成功も健康であることと、陰で支えてくれた家内のおかげである。「お父さん、危ないのでもうやめとき」の声を聞きながら、二〇〇二年までに「韓国一周自転車ひとり旅」を夢見ている。カチンコチンになった頭をほぐしながら、「アンニョンハシムニカ」に悪戦苦闘し二回目の青春にチャレンジしている。

趣味、健康、ライフワーク

小林守さん「長浜市美術展」で二年連続の市展賞

小林守さんが、九月十五日から開催された第五二回「長浜市美術展」の写真部門で、最高位の市展賞を受賞されました。昨年・今年と二年連続受賞の快挙です。



今年の受賞作は、本年三月に参加した「平岩アフリカツアー」で行ったケニアで撮った作品「なかなよし」です。

この作品は、ケニアのマサイ村

の家の前で姉妹にカメラを向けた時いやな顔をして避けた瞬間です。マサイ族は、「写真は魂を奪う」として、撮られるのを嫌がります。一般に撮影は禁止されていますが、今回は「平岩スクール」のある村でもあり、特別に撮影が許されていました。

「平岩スクール」は、平岩道夫、雅代父娘が、マサイ村にプレゼントした小学校で、一五三人の生徒が五人の先生と一生懸命勉強しています。

小林さんは、平成十二年三月十一日・三月二二日の「平岩アフリカツアー」に参加されました。

(森川榮寿会員記)

青山新太郎さんが二つの写真展に入選

(一)「第四回アマテラス展」平成十二年十一月十六日(木)場所「京セラコンタックスサロン銀座」銀座五丁目鳩居堂六階被写体を「太陽、月、空、海、大地」に限った写真展で、青山さんの作品は「潮騒」で四年連続入選です。



(二)「第十四回四季の彩り展」日本写真家連盟主催の写真展

平成十三年一月十九日(金)・二十五日(木)

「富士フォトサロン」スキヤ橋センター

日本写真家連盟の会員により日本の美しい自然を写真に収め、後世に伝えるために催している写真展で、今回は四百名の会員が応募し、百九十点の作品が選ばれました。青山さんの作品は「台風余波」です。

(吉井靖会員記)

小原真二さん世田谷の自宅

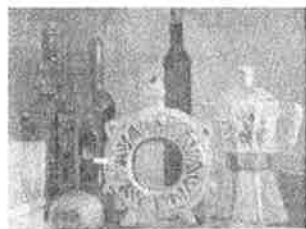
で稲刈り
今年には豊作でした。稲はお正月のお飾りなど近所で喜ばれています。



小原さんの稲づくりは九州時代から四国、仙台時代にも続いています。小原さんのたんぼは住宅街の道行く人に季節の田園風景を提供していて近所でも評判です。と言っても実はプランターのたんぼなのですが、水張り、田植え、手入れ、虫除け、鳥よけなどなど一丁前なのです。

(加藤進会員記)

世田谷区民絵画展に入選
昨年に続いて平松久さん加藤進さんが世田谷区民展に揃って入選しました。展覧会は世田谷美術館で昨年十月十一日から十五日まで、ちょうどメソポタミア展でにぎわっていて盛況でした。平松さんは個展、グループ展に続く出展、加藤さんは年に一度の力試しで見事銀賞を獲得されました。



「城下町小田原ツーデーマーチ」に参加

十一月十九日(日)「第二回城下町おどわらツーデーマーチ」に市村義雄、永井正義、吉井靖の三会員が参加し、「尊徳・富士見」二十キロコースを歩く

朝八時小田原城二の丸広場に集合。九時、よろい武者の法螺貝

とドラの音を合図に、北条太鼓に送られて銅門を後にする。

参加者には若い男女や子供連れも目に付くが、やはり中高年の夫婦やグループが多かった。

行く先々の交差点には、制服の警官、自治会役員、ボランティアの人々が我々の安全を確保してくれてくれる。大変ですね頑張ってくださいと笑顔で挨拶する。

七・一キロのチェックポイント「川東タウンセンターマロニエ」でスタンプを押し、水を貰い、腰を降ろす。再び立ち上がった時足が少し重い感じがする。

十一時半頃「上府中公園」に着、ほぼ半分の行程を歩いた。昼食には早いので続けて歩く。足が重い感じがする。

突然後ろから「富士山はどこですか?」同年輩の女性にうつつと見える富士山を指さす。ついでに金時山も教える。

十二時十五分頃、十三キロのチェックポイント「小田原アリーナ」に到着、皆思い思いの場所です弁当を開いている。我々もスタンプを押してから昼食。

一休みの後、残りの七キロに向けて出発する。些か足が重く、腿の辺りに張りを感じ、少し痛い。

酒匂川に沿って遊歩道を南に下る。この辺りの土手には、洪水の被害を食い止めるため二宮尊徳翁が植えた松が今でも彼方此方に残っていて、その陰が川面に写っている。

「小田原市役所」で三度目のトイレストップ。休む間もなく重たい足をひきずりゴールへ向かう。

十四時半ゴール。「よろい武者」が迎えにくれる。「完歩証」「つみれ汁引換券」を貰う。暖かなつみれ汁で人心地がつく。



新聞によれば、十八日は約四千人、十九日は約三千四百人が参加したとのこと。

適度の疲労と完歩した満足感を得ることができた。また機会を見つけ身近なイベントに参加し、新しい発見をしたい、そんなことを思った一日であった。

(吉井靖会員記)

外国人に日本語を教えています

私はいま横浜国大と東京四ッ谷の日本語学校で、外国人相手に「にほんご」を教えています。私が教えている外国人は、横浜国大が留学生(中国、韓国、ポーランド各一名)、四ッ谷はビジネスマン(中国二、韓国四、フランス二)です。

彼らは一年程度でふつうの日常会話は殆ど問題なくこなすようになり、一年経つと日経新聞を

読むまでになります。私たちが習ってきた外国語教育がいかに効率の悪いものだったか悔しい思いをさせられます。

さて、私は昨年四月から横浜の「にほんご学校」の「学生」になりました。猛勉強の甲斐あって、今年三月、かなり難関の検定試験に合格し、四月からスキルアップのため横浜国大の留学生に日本語を教えることにしました。

四ッ谷の方は、十月から授業をはじめました。この世界ではビジネス経験のある教師が殆どいないので「にほんご教室」というよりまるで「ビジネスマン教育」の教室のようです。

幸い、横浜も東京も生徒さん達と非常によい人間関係ができて楽しくやっています。授業のあとコーヒーを飲みながらの雑談や、一杯酌み交わしながらの国際談義の中で、自分達日本人の姿が別の角度から見えてくることもあります。人と人との理解は国際理解の根底です。私にとって「にほんご教師」は、そのためのステップです。

(秋山晃三会員記)



OB会事務局から

▽会員の状況

全会員数 四六六名 本部二五〇名 関西一六二名 近畿二七名 九州二七名(平成十二年十二月五日現在)

▽訃報

古賀八九八会員 平成十二年十一月二十二日逝去

慎んでお悔やみ申し上げます。

▽平成十三年度 OB会総会 五月二十五日(金) 於 平塚工場

▽OB会会員による作品展開催 皆様の来場をお待ちしています。

日時 平成十三年五月二一日(月) 〆二七日(日)

場所「神奈川県民ホール」(下段左の写真)

(横浜市中区山下町三一)

JR根岸線関内駅または石川町駅下車徒歩十五分 横浜市営地下鉄関内駅徒歩十五分

関東地区を中心とした会員の作品展で、現在のところ十六名(夫人四名参加)の作品四十点が予定されています。展示スペースにはまだまだ余裕がありますので、作品の追加募集をしています。

ご家族を含めもう一度出品を「検討」ください。

出品ご希望の方、作品展に関するお問合せは左記まで

平松 久：〒158-0907 東京都世田谷区用賀一四一十五 TEL:03-3700-1944 FAX:03-3708-6868

▽第二一回歩こう会演芸観賞

平成十三年二月八日(木)

国立演芸場 落語漫才観賞

申込と詳細の問合せは、事務局へ

▽郡山工場見学会 十月中下旬ごろを予定

▽近畿分会が発足

平成十二年五月

の総会で、「近畿分会」(加藤敏雄

分会長)が関西支

部の一組織として

設置されました。

昨年十一月六日、

三菱樹脂関西支社長、OB会会長、

近畿分会長以下分

会員十六名の方々

に出席頂き、発足

会および懇親会が

開催されました。

▽東海地区の地区

幹事に岸川茂さん

が就任

東海地区(愛知、

三重、岐阜)の会

員が十六名になっ

たので地区会員の

要望吸収や本部と

の連絡窓口として

就任していただき

ました。



編集後記：「OB会ホームページ」「OB会だより」に寄稿をお願いします。自分のことでなくても仲間の会員が各種の展覧会などに入選したなどの情報もお寄せ下さい。趣味の話題ばかりでなく、地域のボランティア活動などの話題もお願いします。健康維持のため実行されていることなどの経験談なども楽しい話題だと思います。第4号は平成13年6月発行の予定です。

編集委員

市村義雄

加藤進

黒川亮

原田浩次

森川栄寿

吉井靖

TEL/FAX:0463-55-7235

TEL/FAX:03-3709-3610

TEL/FAX:047-447-2881

TEL 045-621-3355

TEL/FAX:0749-63-5307

TEL/FAX:045-811-9390

e-mail ssmkato@oregano.ocn.ne.jp

e-mail aap77880@hkg.odn.ne.jp

e-mail kh8893@mb.infoweb.ne.jp

e-mail yosiiya@skyblue.ocn.ne.jp

発行者：三菱樹脂OB会事務局：〒110-0016 東京都台東区台東 4-19-9 山口ビル 7-2F

(株)ダイヤサービス東京支店内 担当 原島尚参 TEL 03-3834-9174 FAX 03-3834-8837